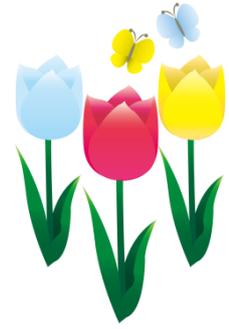


寅さん歩 その11

江戸・東京の祭-62

(花の祭-12)



平野 武宏

[羽村 チューリップまつり]

東京都羽村市羽中四丁目・羽加美四丁目

最寄駅 JR青梅線 羽村駅 西口

「はむら花と水のまつり」として2019年3月28日～4月14日は前期「さくらまつり」、4月6日～4月25日は後期「チューリップまつり」が開催されていました。寅次郎、4月17日東京都ウォーキング協会の例会で訪れました。桜は満開を終えていましたが、チューリップは満開でした。羽村駅西口から羽村取水堰に出て、多摩川沿いを歩くとチューリップまつり会場の「根がらみ前水田」です。

面積約59,000㎡(東京ドーム26倍)の「根がらみ前水田」は、初夏から秋はお米を作り、秋から春はチューリップを栽培し観光スポットになります。地域の子供、農家、チューリップオーナー、ボランティアによる地域の「学び」の場、活力生まれる「にぎわい」の場、そして世代を超えた「交流」の場になるとのことです。

見渡す限りのチューリップは約40万本(球)だそうです。

♪「咲いた 咲いたチューリップの花が 並んだ 並んだ赤白黄色」♪
と口ずさみますが、チューリップの色はそれだけではありませんでした。





写真下左は「ベロナ」、写真下右は「モンテ オレンジ」で寅次郎、初めて見ました



【こぼれ話】 玉川上水

玉川上水は江戸市中への給水を目的としてつくられた羽村から四谷大木戸まで約 43 k mの素掘りの水路です。江戸の発展により既設の上水では不足

となり、幕府は1652年（承応元年）多摩川の水を江戸に引き入れる壮大な計画を立て庄右衛門、清右衛門の兄弟を工事請負人に任命しました。1653年（承応2年）工事着工、わずか8ヶ月で開削し、翌年6月に虎ノ門まで地下に石樋、木樋による配水管を敷設し、江戸城を始め市内に給水しました。工事に尽力した兄弟は褒章として「玉川姓」を賜りました。



写真左は羽村堰に立つ「玉川兄弟」の像です。立っているのが兄 庄右衛門とのこと。写真下左は多摩川、この右手に取水堰があり、玉川上水（写真下右）が始まります。約43kmの区内は約92mの標高差を利用し水を流すよう設計されており、当時の水道技術の高さがうかがえます。2003年、竣工350年を迎え、江戸・東京の発展を支えた歴史的価値を有する土木施設・遺構として国の史跡に指定されました。（東京都水道局資料より）



今回は 江戸・東京の祭-63（花の祭-13）です。

平野 寅次郎 拝